

## 島根半島，地合地すべり地における浅部すべりと深部すべり

## Overlapped landslides in the Chigou landslide area, Shimane Peninsula, Japan

# 熊谷 直樹[1], 横田 修一郎[1]

# Naoki Kumagae[1], Shuichiro Yokota[1]

[1] 島根大・総合理工・地球資源環境

[1] Geoscience, Shimane Univ.

地すべりは長い期間にわたって繰り返し活動するため，新たな地すべりが見いだされても直下には過去の地すべり移動による厚い堆積物が存在していることが多い．このため，基盤の地質構造がすべりやすさの地質的素因をつくっていても，実際には表層のルーズな堆積物や斜面方向に支配されたすべりが目立つことになる．さらに厚い堆積物に覆われたこうした地すべり地では基盤の地質構造自体も不明確なことが少なくない．島根半島にはこうした地すべり地が点在しているが，そのうち，日本海に面した地合地すべり地において詳細な基盤の地質構造とともに過去も含めた地すべり移動を検討した．

当地域の基盤は新第三系の砂岩・泥岩とともに流紋岩質溶岩や火砕岩，さらにドレライトなどの貫入岩など多様な岩相よりなっている．表層堆積物の構成礫も含めて岩相を識別していくと，基盤の地質構造とともに過去の移動についてもある程度推定できる．その結果，当地域には基盤の地質構造に支配された深度の深い地すべりと表層の地形やルーズな堆積物の分布に支配された浅いすべりが共存し，1つの地域のなかで互いにオーバーラップした状態であることが明らかになった．

海岸急崖の砂岩・泥岩互層中ではすべり面とともに特徴的な微小屈曲構造を確認した．微小屈曲構造はNW-SEの軸と大きく転倒した軸面をもつ．これが深部すべりの移動の結果とすると，移動方向は海岸線に斜交した北東方向となり，これは北東に緩く傾斜した基盤の地質構造とも調和している．一方，表層の浅部すべりの移動方向は基本的に日本海側に向かう北であり，こうした移動は現在の地形だけでなく，堆積物からも確認できる．したがって，深部すべりと浅部すべりの移動方向は互いに斜交したかたちとなっている．

基盤の地質構造は従来考えられていたような単純な日本海側への同斜構造ではなく，NW-SE方向に軸をもった緩い緩やかな背斜・向斜構造も推定された．この地形と合わせて考えると，当地すべり地には流れ盤構造だけでなく，受け盤構造のところもある．したがって，基盤の地質構造に支配された深部すべりの移動方向は場所によって大きく異なることになる．